

「景観デザイン手法研究委員会」報告書

**「景観関連コンサルティング業務のあり方と
景観計画・設計手法の調査・研究」**

平成21年7月

景観デザイン手法研究委員会

景観デザイン手法研究委員会 名簿

No.	所属	氏名	所在地	TEL	FAX	E-mail
1	大阪産業大学 工学部 環境デザイン学科	梅原 和彦 梅原 和彦	574-8530 大東市中区P3-1-1	072-875-3001	072-870-7857	k-bara@edd.osaka-sandai.ac.jp 委員長、第1分科会
2	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科	増田 昇	599-8531 堺市学園町1-1	0722-52-1161		masuda@envi.osaka-fu-u.ac.jp 第3分科会
3	立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科	山崎 正史	525-8577 草津市野路東1-1-1	077-561-2740	077-561-2740	myama@se.ritsumei.ac.jp 第2分科会
4	株式会社 企画営業事業部	中村 昇	550-0006 大阪市西区江之子島1-10-1	06-6444-1121	06-6444-1021	n-nakamura@asso-cc.co.jp
5	株式会社 コンサルタント 関西支社 技術1部	戸田 公二	532-0034 大阪市淀川区野中北1-12-39	06-6397-3888	06-6397-5353	e0041404@8con.co.jp
6	株式会社 オオバ 大阪支店 まちづくり部計画課	上田 哲生	530-0005 大阪市北区中之島2-3-18 新朝日ビル	06-6228-1354	06-6228-1361	ueda@k-ohba.co.jp 分科会幹事
7	株式会社 エンタルコンサルタンツ 関西支社 道路G	桐庭 敏昭	532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪ビル	06-6350-4374	06-6398-2675	dobniwa@oriconsul.co.jp
8	株式会社 エンタルコンサルタンツ 関西支社 都市・交通G	高安 浩	532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪ビル	06-6350-4373	06-6398-2675	tomiyasu@oriconsul.co.jp 委員会幹事
9	協和設計株式会社 設計部	北野 寛介	567-0877 茨木市北東2-1-34	072-627-9351	072-627-9350	kitano@kyowask.co.jp
10	京福コンサルタンツ株式会社 教養支店	畑田 隆裕	914-0051 福井県敦賀市本町2-8-16	0770-21-2557	0770-21-1611	ikedai@kfukur-consul.co.jp
11	国際航業株式会社 環境生活部 西日本環境部 関西環境G	平田 眞三	660-0805 尼崎市西長洲町1-1-15	06-6487-1241	06-6487-1370	kenzo.hirata@kic.co.jp
12	株式会社 建設コンサルタンツ 総合計画部	松本 裕子	553-0006 大阪市福島区吉野1-10-13 Nビル	06-6443-1683	06-6443-8367	gokurakuji@shusei.co.jp
13	セントラルコンサルタンツ株式会社 大阪支社 技術第1部	中村 健一	530-6012 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー	06-6882-2134	06-6882-2175	yunakamura@central-con.co.jp 交代:伊藤 仁志
14	中央復建コンサルタンツ株式会社 総合技術本部 計画系G	末 裕介	533-0033 大阪市東淀川区東中島4-11-10	06-6160-4140	06-6160-1230	sue_yu@cfk.co.jp 交代:岡田 哲也
15	中央復建コンサルタンツ株式会社 総合技術本部 道路・トンネル系G	田ノ畑 聡史	533-0033 大阪市東淀川区東中島4-11-10	06-6160-3173	06-6160-1201	tanohata_s@cfk.co.jp
16	株式会社 ニチコンコンサルタンツ 西日本支社 計画調査部	山根 幸雄	530-0028 大阪市北区万歳町3-20 北大阪ビル	06-6316-1491	06-6316-0127	y.yamane@tonichi-c.co.jp 分科会幹事
17	株式会社 ニュージェック 都市・地域整備G	堀内 康介	531-0074 大阪市北区本庄東2-3-20	06-6374-4540	06-6374-5147	horuchikus@newjec.co.jp 分科会幹事
18	パンソックコンサルタンツ株式会社 総合計画部 環境デザイングループ	有田 義盛	541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング	06-4964-2274	06-4964-2275	yoshihata.ariai@ios.pacific.co.jp 交代:福島 康則
19	株式会社 スコ 関西事業部 社会基盤部 都市情報課	田中 勝哉	542-0086 大阪市中央区西心斎橋2-2-3	06-6214-6726	06-6214-6729	katuya.tanaka@pasco.co.jp 交代:大橋 明彦
20	八千代エンジニアリング株式会社 大阪支店 技術第二部	石塚 裕子	540-0001 大阪市中央区成見1-4-70 住友生命OBPプラザビル	06-6945-9215	06-6945-9303	ishizuka@yachiyoo-eng.co.jp
21	和建技術株式会社 環境部 環境システム課	伊藤 功	641-0012 和歌山市紀三井寺632-2	073-447-1853	073-447-1854	f-matsumoto@wakem-eng.com 交代:土岐 浩博
22	株式会社 エスエスコンサルタンツ	土岐 浩博	541-0045 大阪市中央区道修町1-2-11 アルビル道修町	06-6227-5885	06-6227-5558	toki@sss-consultants.co.jp

目 次

序

第1編 景観に係る業務の分析と今後の課題	1-1
第1章 序 論	1-1
1.1 はじめに	1-1
1.2 景観関連業務の広がりとは種類	1-1
1.3 業務評価チェックリストによる分析	1-3
1.3.1 業務特性・取り扱いに関わる項目	1-3
1.3.2 景観関連業務のソリューションとしての適切性に関わる項目	1-4
1.3.3 チェック項目	1-4
1.3.4 チェックリストに基づく業務事例の分析	1-4
第2章 業務対象の分野・テーマ別の分析	1-5
2.1 都市・地域計画・調査、景観計画・調査	1-5
2.2 まちづくり、まちなみ景観	1-5
2.3 土木施設、土木景観	1-6
2.3.1 道路・街路	1-6
2.3.2 河 川	1-10
2.3.3 橋 梁	1-11
2.4 公園・緑地	1-12
2.5 環 境	1-13
第3章 計画・設計の別による分析	1-15
3.1 計画業務の特性	1-15
3.2 設計業務の特性	1-15
3.3 全体総括及び今後の業務対応への提言	1-16
第4章 業務プロセスにおける第三者的主体の関与の別による分析	1-17
4.1 外部組織との連携を必要とする業務の特性	1-17
4.2 外部組織との連携を必要としない業務の特性	1-17
4.3 全体総括及び今後の業務対応への提言	1-18
第5章 非景観目的業務の分析	1-20
5.1 非景観目的業務の特性	1-20
5.2 全体総括及び今後の業務対応への提言	1-21
第6章 資料（評価シート）	1-22

目 次

第2編 景観検討に係る業務の分析と今後の課題	2-1
第1章 第二分科会の研究のねらい	2-2
1.1 景観検討の捉え方	2-2
1.2 研究の基本姿勢	2-2
1.3 研究のねらい	2-2
第2章 研究の方法	2-3
2.1 研究の視点	2-3
2.2 研究フロー	2-3
第3章 景観検討業務の事例分析	2-4
3.1 事例業務の分類	2-4
3.2 事例分析（前提条件の整理及び現況把握）	2-6
3.2.1 市町村合併を契機に取り組む景観計画検討	2-6
3.2.2 市街地における水辺整備計画の景観検討	2-9
3.3 事例分析（方針の設定）	2-16
3.3.1 近代遺産と景観	2-16
3.3.2 中国の都市開発計画コンペにおける景観検討	2-20
3.4 事例分析（計画案の検討）	2-23
3.4.1 歴史的町並みにおける都市再生整備計画	2-23
3.4.2 国道バイパスの景観検討	2-27
3.5 事例分析（計画案への合意形成プロセス）	2-30
3.5.1 近江八幡市風景計画	2-30
3.5.2 三宮裏線の道路整備計画	2-33
第4章 景観デザイン手法の発展に向けた提言	2-36
4.1 各事例からの課題の概要	2-36
4.2 各事例からみた課題のとりまとめ	2-38
4.3 景観計画の課題について	2-40

目 次

第3編 景観に係る設計の分析と今後の課題<生きつづける景観デザイン>	3-1
第1章 序 論	3-2
1.1 研究の背景	3-2
1.2 研究対象事例の抽出	3-2
1.3 研究方法（評価軸）の設定	3-2
1.4 明確となった論点と課題	3-3
第2章 住民参加による公園のデザイン	3-5
2.1 事例の概要	3-5
2.1.1 背景	3-5
2.1.2 業務内容（取り組み）	3-6
2.2 デザイン評価シート	3-7
2.3 評価シートからの課題	3-9
2.3.1 住民参加による公園設計	3-9
2.3.2 住民参画による功	3-9
2.3.3 住民参画による罪	3-9
2.4 住民参加による空間づくり支援のあり方	3-10
2.4.1 行政による支援	3-10
2.4.2 学識者による支援	3-10
2.4.3 コンサルタントによる支援	3-10
第3章 都市における船着場のデザイン	3-11
3.1 事例の概要	3-11
3.1.1 整備の目的	3-11
3.1.2 整備の特徴	3-11
3.1.3 設計検討の経緯	3-11
3.2 デザイン評価シート	3-12
3.3 評価シートからの課題	3-14
3.3.1 船着き場としての特性を活かす	3-14
3.3.2 公共施設としての質の確保	3-14
3.3.3 水都大阪として求められる場の格式	3-14
第4章 擬岩を使った遊歩道デザイン	3-15
4.1 事例の概要	3-15
4.1.1 対象地の状況	3-15

4.1.2	景観デザインに関わる設計概要	3-15
4.1.3	模型、フォトモンタージュでの検証	3-16
4.2	デザイン評価シート	3-17
4.3	評価シートからの課題	3-19
4.3.1	擬岩による景観づくりの課題	3-19
4.3.2	バリアフリーと景観デザインのトレードオフ	3-19
4.3.3	コストと景観デザインのトレードオフ	3-19
4.4	まとめ	3-19
第5章	ディテールにおける事後評価の効果	3-20
5.1	事例の概要	3-20
5.1.1	評価の目的	3-20
5.1.2	事例の紹介	3-20
5.2	デザイン評価シート	3-21
5.2.1	緑化舗石工	3-21
5.2.2	階段工	3-23
5.3	評価シートからの課題	3-25
5.3.1	課題：設計と結果の相違	3-25
5.3.2	現在の評価	3-25
5.3.3	事後評価の有益性	3-25
第6章	道路沿道に発生した法面の緑化・修景	3-26
6.1	事例の概要	3-26
6.1.1	業務の概要	3-26
6.1.2	現地状況	3-26
6.1.3	植栽計画検討の要点	3-26
6.1.4	選定樹種	3-27
6.1.5	施工後の状況	3-27
6.2	デザイン評価シート	3-28
6.3	評価シートからの課題	3-30
第7章	高速道路法面の景観検討	3-31
7.1	事例の概要	3-31
7.1.1	業務の概要	3-31
7.2	デザイン評価シート	3-32
7.3	評価シートからの課題	3-34
7.3.1	周辺在来種の遷移効果の検証	3-34
7.3.2	法枠着色効果の継続期間の評価	3-34
7.3.3	「里山風景の定義」	3-34

7.3.4	ラウンディング実施箇所の選定	3-34
第8章	農村河川におけるデザイン	3-35
8.1	事例の概要	3-35
8.1.1	改修前の状況	3-35
8.1.2	景観デザインに関わる設計概要	3-35
8.1.3	風景イメージの検討	3-36
8.2	デザイン評価シート	3-37
8.3	評価シートからの課題	3-39
8.3.1	良い景観に不可欠な維持管理	3-39
8.3.2	石・土・緑による景観づくり	3-39
8.3.3	護岸勾配	3-39
8.4	まとめ	3-39
第9章	湿地ビオトープ整備と維持管理	3-40
9.1	事例の概要	3-40
9.1.1	背景	3-40
9.1.2	環境整備目標	3-40
9.1.3	整備の流れ	3-40
9.1.4	補足整備	3-41
9.2	デザイン評価シート	3-42
9.3	評価シートからの課題	3-44
9.3.1	整備地選定	3-44
9.3.2	基盤整備	3-44
9.3.3	耕土の選定	3-44
9.3.4	補足整備	3-44
9.3.5	継続的な維持管理主体	3-44
9.3.6	発注時期	3-44

序

景観デザイン手法研究委員会は、近年の社会情勢、特に景観行政の動向の大きな変化を踏まえつつ、これまでの景観に関わるコンサルティング業務の成果を収集して分析・評価し、そこから新たに業務ノウハウを再構成していくことを目的に、委員 22 名（内、外来委員 3 名）をもって 2006 年 4 月に発足し、以来 3 年にわたって研究活動を続けてまいりました。

研究の動機となった、景観に関わる政策や行政の動向の大きな変化は、以下に見ることができます。

- ・「美しい国づくり政策大綱」発表、国土交通省、平成 15 年 7 月
- ・「美しい近畿へのみちしるべー近畿の景観宣言ー」発表、近畿地方整備局、平成 16 年 6 月
- ・「景観緑三法」施行、平成 16 年 12 月

これらは、本委員会の前身である平成 18 年～21 年設置の景観デザイン研究委員会が活動中の出来事であり、これに応じて、活動内容も変更を加えることになり、トーク・ミーティングのテーマ変更、各分科会サブテーマ変更、2005 年 9 月 6 日の第 38 回(平成 17 年度)研究発表会における特別講演会(シンポジウム)「“景観新時代”を迎えてー景観緑三法が変えるコンサルティング業務ー」の開催を行いました。しかしながら、当研究委員会の最終報告書では、そうした情勢変化(シンポジウムにおける用語で言えば“景観新時代”)に応じたコンサルタントとしての対応策を適切に提示し得たとは言い難いところがあると感じました。

特に、今後、建設コンサルタントにとっては景観に関わるコンサルティング業務が増加することが予想され、自治体等に対して積極的にアプローチするなど、新しいビジネス・チャンスが生まれつつあると捉えることもできることに対して、建設コンサルタントに必要な、景観についての理解を深化し、技術力を向上するに資する情報を提示し得たかどうかが問題です。そこで、本委員会では、その点に着目し、変わりつつある景観行政へ対応し、新しいビジネス・チャンスを活かすためにも、課題を掘り下げ、実践的に役立つ研究を実施することにいたしました。

研究では、研究期間の前半には、各委員が景観業務の事例を持ち寄り、報告するとともに業務に関わる課題抽出を行いました。そして、後半は、景観業務事例の分析・評価を行い、景観業務としての課題とその対応策を研究して、実践的に役立つノウハウとして再構成することを試みました。

以下に示すとおり 3 分科会を設置し、それぞれに学識委員を置いてそのアドバイスを受けつつ、参加委員が主体的に学び、考え、研究する体制をつくりました。

① 景観業務分析(学識委員：榊原和彦研究委員会委員長、大阪産業大学教授)

- ・事例をはじめ、(景観に係る)業務全体を見渡し、プロセス、検討手法など、建設コンサルタントが直面している課題を整理・分析し、対応策を研究する分科会
- ・課題分析対象は、発表事例の全てである。

② 景観計画業務分析(学識委員：山崎正史立命館大学教授)

- ・業務の上流部分にあたる、まちづくり・街並み景観、風景計画・風景づくり、設計の前段階の検討など、景観計画・全体計画を行う上での課題分析、対応策を研究する分科会

③ 景観設計業務分析(学識委員：増田昇大阪府立大学教授)

- ・設計を行い実際に現場ができていない土木施設(交通施設、河川、ダムなど)、現場ができていなくても設計を行った業務において、設計を行う上での課題分析、対応策を研究する分科会
- ・設計の中には、景観設計業務として景観に十分配慮した設計から、通常の実施設業務の中で良いデザインを行うためにちょっとした工夫を行ったものまでを含む

本報告書は、以上の3分科会の研究成果をとりまとめるものであります。所期の目的が達成され、景観関連コンサルティング業務のよりよき展開に貢献できれば、これに優る幸せはありません。

なお、本研究委員会（景観・デザイン関連委員会）は、今次をもって、(社)建設コンサルタンツ協会近畿支部が設置する研究委員会としては、幕を閉じることになりました。委員会は、以下に示すように、平成2年に発足した景観設計研究委員会を嚆矢として、都合六次にわたって設置され、報告書も、今次委員会のものを除き、5冊が刊行されております。

- ・景観設計手法研究委員会（平成2年～平成6年）「景観設計の理念と手法に関する調査・研究」
- ・景観デザイン研究委員会（平成6年～平成9年）「土木・景観・デザインの手法と実践に関する調査・研究」
- ・土木デザイン研究委員会（平成9年～平成12年）「土木デザインの実践的理念と手法に関する研究・調査」
- ・土木デザイン手法研究委員会（平成12年～平成15年）「土木・景観デザインの理念とノウハウに関する調査・研究」
- ・景観デザイン手法研究委員会（平成15年～平成18年）「新時代の景観・デザイン手法のノウハウの確立と普及」

これらは、Webページ化し、インターネットで参照できるようにしました（一部作成中）。

http://www.edd.osaka-sandai.ac.jp/~k-bara/kenkon_committee/

今後は、これらの成果を何らかのかたちでまとめることを考えていきたいと思っております。また、これまでの委員会によって築くことができた人的ネットワークも、参加したメンバーの全員にとって貴重な財産であり、何らかのかたちで継続して活動できるよう組織していきたいと考えております。各位のご協力をお願い申し上げます。

分科会のご指導をいただいた増田昇大阪府立大学大学院教授、山崎正史立命館大学教授には、心より感謝を申し上げます。また、本研究委員会を支えていただいた(社)建設コンサルタンツ協会近畿支部、参加いただいた委員各位、委員を派遣していただいた会社、調査・研究にご協力をたまわった方々に、深甚なる謝意を表します。

平成21年7月

景観デザイン手法研究委員会 委員長 榊原和彦